

平成25年第12回茂原市教育委員会会議（10月定例会）日程

10月31日（木）15：00～

於：茂原市役所9階会議室

1 開会宣言

2 会議録署名人の指定

3 会議事項

（議決事項）

提出議案なし

（報告事項）

- 1 平成25年度茂原市教育功労者表彰式について
- 2 平成25年度第13回（11月定例会）及び第14回（12月定例会）茂原市教育委員会会議の日程について
- 3 その他

4 閉会宣言

5 協議事項

茂原市教育委員会会議録

平成25年第12回（定例会）

- 1 期日 平成25年10月31日（木）
開会 午後3時00分
閉会 午後3時56分
- 2 場所 茂原市役所9階会議室
- 3 出席委員
委員長 齋藤 晟
委員長職務代理者 足立 俊夫
委員 鎌田 俊郎
委員 鈴木 一代
教育長 古谷 一雄
- 4 出席職員
教育部長 鈴木 健一
学校教育課長 宮本 昌典
学校教育課主幹 木島 明良
生涯学習課長 高中 正典
体育課長補佐 吉田 茂則
中央公民館長 唐鎌 孝雄
美術館・郷土資料館長 渡辺 哲也
教育総務課長補佐 中村 一之
教育総務課主事 松本 卓也
- 5 署名人の指定
委員 古谷 一雄
委員 鎌田 俊郎

- 齋藤委員長 : 平成25年第12回茂原市教育委員会会議（定例会）を開会します。本日の出席人数は5名ですので、定足数に達しており会議は成立いたしました。本日の会議録署名人は、古谷教育長と鎌田委員にお願いいたします。これより会議事項に入ります。本日は、議決事項がありません。報告事項に入ります。報告事項の1「平成25年度茂原市教育功労者表彰式について」説明をお願いします。
- 鈴木教育部長 : 報告事項の1「平成25年度茂原市教育功労者表彰式について」ご説明します。お手元の資料をご覧ください。平成25年度茂原市教育功労者表彰式につきましては、茂原市教育功労者表彰規則に基づき11月3日に教育功労者表彰式を開催しております。本年も9月26日に開催した教育委員会会議において17名の受賞者を決定しております。教育委員会では、今月16日の台風26号により市内に1,000世帯を超える床上・床下浸水が発生し、まだ避難所生活をされている市民がいる状況等の諸事情を勘案して、事前に教育委員さんと協議させて頂きました

ように、例年通りの表彰式は取りやめることといたしました。

当日は、受賞者、学校関係者並びに主催者である教育委員会のみが参加し、簡素な形式により表彰状の授与のみを実施させて頂くことといたしました。一切を取りやめて、個別に表彰状を配付することも検討しましたが、関係者からの希望もあり、簡素な形式で開催することといたしましたので、ご了承頂きたいと思えます。配布資料等につきましては、「平成25年度茂原市教育功労者表彰式」という名称をそのまま使用させて頂きますので、ご了承をお願いします。

また、記念写真の撮影につきましては、市民広場での撮影を取りやめ、5階東側で撮影をいたします。

なお、各教育委員の役割分担は、報告事項1参考資料、平成25年度茂原市教育功労者表彰式次第の通りでありますので、よろしくお願ひいたします。

開催期日間近に迫った中での変更であり、教育委員の皆様には多大なご迷惑をお掛けすることになりましたが、なにとぞご理解の程、よろしくお願ひ申し上げます。

齋藤委員長 : ただ今、教育功労者表彰式についての説明を頂きました。このことにつきまして何か、ご質問、ご意見ありましたらお願ひいたします。

社会教育委員は、14年でよろしいんですね。それで該当するわけですね。スポーツの方は、15年ということなんですか。規約がありますよね。

鈴木教育部長 : 10年以上という規約の中で、たまたまスポーツ推進委員さんの方は順番にやっている関係で、10年を超えれば貰えるんですが、順繰りで受賞している関係で、遅れているという話を聞いております。

齋藤委員長 : 分かりました。ということは、基本的には、両方同じってことですね。

古谷教育長 : 今回の質問については、前は教育功労者表彰は、学校の先生方がどちらかという中心だったんですが、その後、社会教育の方々も表彰した方がいいのではないかという話になって、それから表彰するようになったものですから、徐々にということですね。それで少し差がございます。

齋藤委員長 : 他にいかがでしょうか。

退職なさる先生は。

鈴木教育部長 : 定年で退職される方が、1番から7番までと、それと11番。

足立職務代理 : 昨年、校長先生の中で麻生先生が前に貰っていたからということで、名前が上がらなかったんだけど、今回はそういう先生はいらっしゃらないんですね。

鈴木教育部長 : 南中の関校長先生が、同じ扱いだと聞いております。

古谷教育長 : 千葉県の教育功労者表彰は、鈴木守先生と、それから社会教育では片岡さん、学校医の牧野先生が新聞に出ております。

鈴木教育部長 : 千葉県連合夫人会の副会長。茂原の会長。

齋藤委員長 : いかがでしょうか。無いようでしたら、報告事項ということで、これで終わりにいたします。

次は、報告事項の2「平成25年度第13回（11月定例会）及び第14回（12月定例会）茂原市教育委員会会議の日程について」の説明をお願いします。

鈴木教育部長 : 第13回教育委員会会議（11月定例会）ですが、11月14日（木）15時から9階会議室で行いたいと思えます。第14回教育委員会会議（12月定例会）につきましては、12月26日（木）15時から9階会議室で開催させて頂きたいと思えます。

齋藤委員長 : 日程につきましては何か。

各委員 : ありません。

齋藤委員長 : その他、報告事項ございますか。

宮本学校教育課長 : 本市の幼稚園、それから保育所の今後のあり方につきまして、今後、子育て支援課の方で子ども子育て審議会というものが開催を予定されております。その中で、本市の子ども子育て支援事業計画が策定される予定です。およそ26年の秋を目標に策定となっております。そこで現在の幼稚園と保育所の状況等について本日報告をさせて頂こうと思ひまして、資料を配付

木島学校教育
課主幹

させて頂きました。なお、説明については担当の木島主幹の方からさせて頂きます。

市内保育所・幼稚園施設資料をご覧いただきたいと思います。この資料につきましては、平成25年5月1日現在とさせて頂いております。

まず、保育所ですが、公立保育所が現在10施設ございます。定員につきましては、全部で1,200名。在園者数につきましては、938名、充足率が78.17%。定員に対しては、262名マイナスになっております。

次に、私立保育園。これは、高師保育園、東茂原保育園の2園ございます。これにつきましては、定員の合計が449名。在園者数は、451名ございまして、充足率が100.45%。2名、対定員増という形でございます。

次に、幼稚園でございますが、公立幼稚園が4園ございます。定員につきましては、4園で455名。これに対しまして、在園数が232名、充足率が50.99%、マイナス223名となっています。

次に、私立幼稚園でございますが、市内に5園ございます。合計定員数が、835名。在園数が663名、充足率は79.40%。マイナス172名です。

これについて現在幼稚園においてですが、公立・私立ともに100%に充ちていないと。なおかつ、公立幼稚園については、およそ半分の充足率になっているということが、今後の問題になってくるだろうと。既に問題にはなっているんですが。今回、先程、宮本課長の方から説明がございましたけれども、平成27年の4月スタートということで聞いておりますけれども、茂原市の子ども子育て支援事業計画が策定されまして、27年の4月からスタートすると。これは全国一斉にスタートするそうです。茂原市は茂原市独自のものになるか分かりませんが、それを策定するために11月5日から審議会が立ち上がるということで聞いております。これを踏まえた中で、次のページを見て頂きたいんですが、公立施設（保育所・幼稚園）の想定園児数ということで、これは子育て支援課と学校教育課の方で資料の作成を行ったものです。

算定の方法なんですけど、私立施設の園児数が今後も現状の数を維持するものと仮定して、少子化が進んでいますので、減ったものは公立の方に来るという前提で数字を出してあります。2番目としまして、平成27年度及び平成32年度の幼児人口については、市企画政策課算出データを使っております。平成37年度以降と書いてあるんですが、ここには表はないんですが、これ実は47年まで表は作ったんですが、これについては人口問題研究所のデータを基にコーホート法により算出をしました。3番目としまして、平成27年度以降の園児数については、年齢毎の平成23、24年度の内、利用率の高い方の値を私立に、低い方の値を公立に当て、それぞれに予想人口を掛けて算出してあります。それと4番目、平成27年度以降の私立施設の合計欄は、同施設において平成23、24年度末の内、園児数の多い方の値を使用しました。それで、②で求めた年齢毎の和に不足する園児数を補正してあります。私立の方には、プラス補正。その反対で公立施設は、マイナスを補正してあります。それをそれぞれの施設の園児数の計としてあります。

ちなみに、公立保育所。例えば、平成23年度の0歳児。これは園児数が58人、幼児の人口は632人おります。この内58人が、公立の保育所に来ていますという意味です。同じく24年度については、園児数が59人いまして、0歳児の人口は615人いました。ということで、それぞれの利用率が23年は0.091772、24年度については0.095935にしてあるんですが、その隣の27年度予想、32年度予想については、公立については低い方の利用率を使っていますので、27年度については571人幼児がいるだろうと、それに低い方の0.091772を掛けて、52人ぐらいが公立保育所にいるのではないかというような想定をしたということです。これをずっと下の方にいきますと、公立の幼稚園があります。これが今ある4園なんですけど、27年度の予想でいきますと、あ

くまでも予想なんです、公立を利用する子供の数は190人くらいになるだろうということです。32年にいきますと、多分103人くらいになるだろうと予想しております。103人といいますと、現在豊岡幼稚園が100人くらいですから、豊岡幼稚園は元々200人以上の施設なんですけれど、豊岡の半分の施設があれば公立の使命は果たしてしまうということが言えるだろうということです。細かな表で分かりづらかったかもしれませんが、現状と今後の予想について説明させて頂きました。

鈴木教育部長 : 今、担当から概要について説明させて頂きましたけれども、11月5日に子ども子育て審議会を開催する予定で、これからこの内容が審議されていくという形になっております。それで、これからコンサル業者によってニーズ調査、市民の方でこういうものに対して要望とか、どういうふうにして欲しいとかというニーズ調査をして、その結果を基に茂原市の子育て支援、子ども子育てどうしていくのかという計画が26年度中に完成するという話になっています。この間に事務方も当然、審議会の下に事務方の組織がございますので、教育委員会としましては所管している幼稚園をどうするのかということが当然話として出て来ると思います。とりあえず、現時点で教育委員さんのお考えがもしあるのであれば、それを承って教育委員会の意見として反映していくような形で、事務方として対応していきたいという部分がありますので、今日この場で全てをという形では考えておりませんので、また委員会でご意見を聞くことも何回かあると思うんですが、とりあえず現時点で説明した流れの中で、何か特別なお考えだとか感じるものがあるのであれば、お話頂ければありがたいということで本日も報告させて頂きました。

齋藤委員長 : 幼稚園あるいは保育所、色々取り沙汰されておりますが、こうして数字で見せられると、なるほどなとつくづく思います。今、説明を頂きました。子ども子育て審議会というものが発足するということですが、教育委員の中で誰かその中に入るといったことはないので、

鈴木教育部長 : 5日の会議です、多分今何も聞いて無いので、無いと思います。

齋藤委員長 : この時点で言いたいことがあったらお聞かせいただければということですね。いかがでしょうか。

足立職務代理 : 今の話で子ども子育て審議会に我々は誰も入っていないということですが、事務方はどなたか入っているんですか。

鈴木教育部長 : 事務方は、福祉部長が入っていると思います。あと、宮本学校教育課長と木島学校教育課主幹が入っています。

足立職務代理 : 資料を早く出して頂いたことに感謝します。

実際、これを拝見してなるほどなと思ったのと、ここまでいってしまうのかという感じなんです、平成32年度の予想の数字を見ますと、私立の幼稚園・保育園はそのままの状態と計算してあるということなんですけれども、それを差し引いても公立の幼稚園の22,64%という非常に厳しい数字でございまして、それだけ子どもの数も減って来るだろうということなんです、今現在、事務方で考えている豊岡幼稚園あるいは豊岡地区、保育所がないというところで、こども園という話はどの程度話し合いをされていますか。

木島学校教育課主幹 : 正式に市の考えとしては、まだ言える立場ではないんですが、豊岡、本納地区に限らず、例えば五郷幼稚園と保育所、中の島幼稚園と保育所、公立が非常に接近しております。なおかつ、定員から見ますとそれぞれ定員が減ってしまっていて、出来ればそういうものについては、こども園化することが一番いいんですが、ただ現行の施設でこども園をやろうとすると部屋の数が圧倒的に足りない。そういう中で、市の方も新たに新しい施設を建設するというのも非常に厳しいものがございまして、そういった中で審議会が11月5日からスタートするんですが、先日私立の幼稚園の方からこども園を検討したいと電話がありました。私立の施設についても、現在の幼稚園施設ですと、やはり部屋数が足りませんので、新たに増築するとかそういった形を取らなければ、こども園へは移行できないと思います。要は、これから市民の方へアンケートを取るんだそうなんですが、それでニーズ

調査を行って、どれくらい需要があるのかというのを出して、市内をいくつかのブロックに分けた中で、こういう配置という提案がされるのではないかと私の予想です。その中で、ある程度市の方としても、施設をどうするかという考えを持っていなければいけないので、子育て支援課と話をしております。いくつかこういうのはどうかというものを実際は作ってあるんですが、それを今口に出して言うのは時期尚早だと思いますので、その点についてはご容赦頂ければと思います。

齋藤委員長 : 思いはあると思います。その辺を察しながら意見を述べたいと思います。
足立職務代理 : 五郷幼稚園にお伺いした時にも、五郷幼稚園のすぐ近くにお住まいになっている方が、私立の迎えに来る幼稚園に入っているという話も伺っているし、今おっしゃったように保育所とすぐ隣合わせだし、中の島もそうだったことで、正直市が幼稚園をやるという任務は終わりに近付いているのかなというのが私の個人的な意見でございます。さっきの、こども園にしたいという私立の話、そういう形で民間でやって頂けるのであれば、そっちに移行して行くのかなという感覚を持っているところです。

齋藤委員長 : 必然的に集約されていくというのは、誰が見ても分かることですけど、集約のされ方が公であるか私であるかということだと思いますけど。
教育っていうのは、ある程度歳がいったときに、それが3歳か4歳か分かりませんが、非常に大切だということは皆さん承知の事実だと思うんですけども、それを果たして私に任せていいのかということは大いに論議するところではないかなと個人的には思います。
私の方に集約されているのかなという今の足立委員のご意見なんですけれども、それは確かにそのように思いますけれども、皆さんいかがでしょうか。

鎌田委員 : ちょっとよく分からない所なだけけど、こども園のイメージが分からないんですよ。保育園と幼稚園が一緒になっているという。一般の市民の方って、こども園って言われても分からないと思うんです。その辺の良いいところとか悪いところとか、現実のものとして提示する何かがあってもいいのではないかなと思います。こども園っていうのが、一体どういうものかという。

齋藤委員長 : どうでしょうかイメージ的に。こういうようになる。こども園はこういうイメージということを言って頂けますか。

鈴木教育部長 : 先程、委員長が言われたように、幼稚園は文部科学省で教育施設ですので、そこで教育をする。私立の幼稚園なんかでは、例えば鼓笛をやるとか、英語とか、色んな形で教育的なものを指導するというのが文科省の幼稚園です。幼稚園っていうのは、当然保育時間が短いですよ。朝から晩まで預かるということはしませんので。そういう教育施設として、幼稚園というのはあると。保育園というのは厚生労働省ですので、措置ですので、誰でも入れるわけではなくて、例えば共稼ぎの人のお子さんとか面倒を見る人がいないお子さんを措置入園という形でお預かりするということですので、当然朝から晩まで預かるというようなもののイメージです。

ですから基本的に保育時間が違うと。片方は、怪我をしないで安全にお預かりする、片方は教育をするというところが、まず2つ分かれていて、こども園というのは、その1つの施設の中に幼稚園の部分と保育園の部分を併設しましょうという話ですので、朝早く保育園の子どもが来てお預かりして、その後に幼稚園の子どもが来て幼稚園のお子さんは教育を受けた後、帰ります。その後、残った保育園の子どもをお預かりする。

その流れの中で、子ども園になると、当然幼稚園と保育園の子どもが一緒にいる時間があるじゃないですか。その重なる時間については、保育園的な要素でいくのか幼稚園的な要素でいくのか、また微妙なところがあるんですけども。例えば、幼稚園的な要素を強くすれば、当然教育的なことをしていきましょうという話になるでしょうし、保育園的な要素が強ければ、幼稚園の子どもと保育園の子どもは違うようなカリキュラムになるってこともあると思います。そういうような流れの中で、1つの施設の中で2つの施設が合体したようなイメージだと思って頂ければ。

- 鎌田委員 : 建物で割られてて、入ってきたらそれぞれのところに行くのならそれはいいんですけど、一緒くたになってこちらは勉強して、こちらは遊んでてというわけにはいかない。
- 鈴木教育部長 : クラス的には、1つの施設の中にクラスがいくつかある中で、このクラスは3歳児の幼稚園的なことをやる、こっちは保育園的なことをやるということはあるんですよね。
- 木島学校教育課主幹 : 睦沢に認定こども園がありまして、以前見に行かさせて頂いたことがあります。基本的に、3歳児以降については、一緒くたらしいです。同じ教室で。基本的にこの狙いというのが、小1プロブレム、要は幼稚園教育を受けてスムーズに小学校1年生に上がる。これが1つの狙い。保育所だけでなく、幼稚園教育もしてしまうと。2時までは幼稚園児も一緒に、時間になれば幼稚園児は帰ります。保育を受ける子どもたちは、そのまま残って夕方までいるという形です。あと、0歳から1歳2歳、そういう子どもたちへは別の部屋が用意されていて、そちらで見て頂ける。
あと、地域の人たちの子育ての相談だとか、そういった特別な部屋も用意されていて、先生もそこに配置されているというような施節。要は、子育て支援のための施設という捉え方をして頂けると分かりやすいと思います。
- 齋藤委員長 : 基本的には、幼稚園、教育が勝つというご説明ですね。
木島学校教育課主幹 : 要は、小学校へスムーズに移行できるような。
- 鈴木教育部長 : また、見に行くような機会もあると思いますので。
齋藤委員長 : 初めて出来るものですからね。だからこそ、最初が肝心だと思います。他にいかがでしょうか。
- 鈴木委員 : やはり公立の役目とか、私立の役目と違ってというのはあるので、その辺が難しいのかなというように今、思っています。
- 齋藤委員長 : 早い時期にこういう話を持ち上げて頂いて、ありがたく思っております。途中においてもまた色々お聞かせ頂ければ、我々も途中においても何か言える機会があればいいかなと思っております。そういうことで、このご報告は、報告を頂いたということにします。
- 高中生涯学習課長 : お手元に報告事項その他2、第62回茂原市文化祭の中止に伴う自主開催実施団体まとめというものがお配りされていると思います。文化祭につきましましては、皆様方に28日付で62回文化祭は中止ですと、またこれに伴います11月3日に予定しておりました各会場への巡回も中止いたします。これにつきましましては、ご連絡を申し上げた通りでございまして、これにつきましましては、10月の25日臨時で文化祭の実行委員会を開きまして、そちらの方で決定がなされたということでございまして。ただ、中には26日から始めようと思ひまして、準備を進めていて、もうすぐにも出来るというようなところもございまして、そういうところから何とか実施できないかというようなご意見がございまして、実行委員会の方でそれを協議いたしまして、文化祭の文化祭としての冠は取りまして、自主グループの教室または展示会というようなことで開催するのであれば、これは自主グループの主体でやってくださいというようなことで、皆様方にお知らせをいたしました。そのお知らせをして、やりたいまたは中止だとまとめたものが、皆様方のお手元にある資料でございまして。この中で、裏表と3枚ございまして、1枚目の中央公民館、下から2番目にございまして、そこへ延期というふうに書いてあります。こちらの方につきましましては、中央公民館の方で実施を予定しておひまして、児童生徒らが文化祭に向けて一生懸命取り組んでいるんだと、この発表の場をぜひ設けてもらいたいというような学校とか一部の保護者の方々から要望がございまして、これを生涯学習課の方でもそのようにしたいと考えまして、この段階ではまだ会場の手配が済んでいませんでしたけれども、会場の手配が取れました。12月12日(木)から12月18日(水)まででございまして、美術館の方で、こちらの方の小中書写展、美術展それから幼稚園・保育所美術展、塾書道展というものを開催したいというような計画であります。

また、小学校の手作り作品展というものも3校でございますけれども、やっていますのでそちらの方も展示していきたいというふうに考えております。また、美術館の方が狭いという状況も考えられますので、そういう場合は中央公民館の方もお借りいたしまして、実施したいというふうに考えております。

齋藤委員長 : 11月3日の文化祭について色々ご苦労なさっていると伺います。そのような中で中央公民館・市民会館館長、雑駁で結構ですから被害状況を教えて頂けますか。

唐鎌中央公民館・市民会館館長 : 中央公民館と市民会館の被害状況につきましては、床上4センチの浸水がありまして、それから空調機器が水に浸かりましたので、使えなくなりましたと。それから、市民会館につきまして、同じように床上約4センチ程度の浸水がありまして、それに伴いましてトイレが地下方式ですので、そこに水が集中してしまいましたので、同じように電気関係、それから空調機器関係、そういうものが一切使えないと。それから、南側から水が浸入したということで、座席が170席ほど水に浸かってしまいました。カーペットが浸かりましたので、その辺の修繕を現在、計画しているところであります。

齋藤委員長 : 床上っていうのは、市民会館は2、3段上がってロビーがありますね。あれが床っていうことですか。公民館も同じで、あの上が4、5センチということですか。

鈴木教育部長 : 図書館の方も。お陰様をもちまして、図書館にてについては、29日から平常通り開館させて頂いています。被害状況については、図書と視聴覚用資料、合わせて15,112点が水没しまして、申し訳ないんですが、貴重な茂原市民の財産ですけれども、廃棄処分という形で処理させて頂きました。なお、廃棄したものについて動産保険に入っていますので、保険の補てんがあります。15,112点の内、雑誌類がまず保険の対象になりません。それから、視聴覚資料のCDもダメだそうです。あと、寄贈を受けたものもダメだそうです。という話の流れの中で、残ったものをこれから保険会社の方でリストによりチェックをして、購入金額の2分の1という形で保険の対象となるという話になっています。査定が終わりましたら、金額も確定すると思うんですけども、現状まだいくらになるということは分からないんですけども、そのような状況でございますのでご理解よろしくお願いいいたします。

足立職務代理 : 図書館に、この災害にあったということで、金銭を寄付したいとか、書籍を寄附したいとか、そういう話はありましたか。

鈴木教育部長 : 図書館の書籍の購入費として、寄附を頂いております。これは、中善寺の金坂医院さんから100万円の寄附を頂いておりますので、また14日に感謝状の贈呈の関係で上程させて頂きます。書籍については、図書館に本を納入している業者から、本を50冊くらいもらえるという話を聞いております。

齋藤委員長 : 他に何かございますか。

鎌田委員 : 中止ってたくさんなっているんですが、これはそういう対応で色んな事ができないから、中止っていうことなんですか。

高中生涯学習課課長 : まず、中止にしたっていうのが台風の災害の跡がまだ残っていると。後始末というか、まだ皆様方も避難している状況で、対策本部もまだ解散していない状況ということがありまして中止にしたんですけど、そういった中で、まず一番最初に市役所の中でやるものについては、出来るだけこういう状況なんで中止にしてくださいと、それはこちらの方でお願いしました。また、職員の方がその時ほとんど出払っていて、いないという状況でございましたので、文化祭の自主グループがやるにしても、職員の方は出せませんというようなことで、皆様方にご理解を頂きまして、それでそういうことであれば中止もやむを得ないということで、中止をしているところもあります。

鎌田委員 : 自分達でやればやっていいわけですか。

高中生涯学習 : はい。

課長
齋藤委員長 : それでは報告事項は終わりにいたしまして、第12回目の教育委員会議
定例会を閉会と致します。

茂原市教育委員会会議規則第27条の規定により、上記会議録が相違ないことを証するため、
ここに署名する。

平成25年11月14日

委員長 齋藤 晟

署名委員 古谷 一雄

署名委員 鎌田 俊郎